

ブックちゃんの

2020年2月23日 富士山の日

ふじのみや探検



めぐ
第30号 「富士山からの水の恵み」

はっこう 発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

富士宮市は、^{せかいいさん}世界遺産「富士山」の^{めぐ}恵みをたくさん受けて^{はってん}発展してきたまちです。私たちがふだん使っている水も「富士山」からの^{めぐ}恵みのひとつです。

ひみつ1 富士山にふった雨や雪はどこへいくの？



富士山にはたくさんの雨や雪がふっています。

しかし、富士山には川がありません。^{はっぴやくやさわ}八百八沢といわれるほどたくさんの谷はありますが、ほとんどの沢は水が流れていない^{からさわ}涸沢です。天気がよければ、川の上流では、水がほとんど流れていない川もあります。

では、富士山にふった雨や雪はどこへ行っているのでしょうか？

富士山の雨や雪のほとんどは、富士山の地面にすい込まれます。そして、地下水となりふもとの多くの場所に湧きだします。

その湧き水はとてもきれいで、富士山のふもとにくらしている私たちに、いろいろな^{めぐ}恵みをもたらしてくれます。富士宮市は、全国でも有数の^{ゆうすう}湧き水の多い^{まち}街なのです。

◆富士山にふる雨と雪の量

富士山にふった雨や雪の量(^{こうすいりょう}降水量)は1年間約25億^{おく}m³で、富士山にふった雨などが、ふもとの湧き水となって出るまで10年~15年かかるといわれています。

そこで、富士山にどのくらいの水の量がたくわえられているかを計算してみると…。

水は^{じょうはつ}蒸発もするので、1日500万トンがたくわえられるとして計算すると、15年分だと約274億トンにもなります。

^{びわこ}琵琶湖(滋賀県にある日本で一番大きな湖)の^{ちよすいりょう}貯水量が275億トンといわれているからほぼ同じ量がたくわえられているという計算になります。

《これは、いくつかの考え方(^{すいそく}推測)のひとつです。》



このむずかしい計算は、^{せんもんか}専門家の先生が計算したんだよ。
数字が大きすぎて分かりにくいけど、すごい量だということはわかるよね。



©富士宮市さくやちゃん

ひみつ2

富士山の沢や川について

『ひみつ1』でおはなししたように、富士山にはたくさんの沢がありますが、天気がよいときは、ほとんど水は流れていません。川の下流でもわずかしか流れていません。

しかし、大雨がふると一転して、土石流などが発生する危険な川もあります。

富士山周辺の急な沢や川では、大雨などにより、大きな岩を含む土砂が勢いよくたくさん流れてきます。その土砂がたまることにより、川底が浅くなったり、堤防が弱くなったりして氾濫しやすくなってしまいます。昔は、芝川・潤井川・弓沢川・風祭川などでは水があふれたり、堤防がくずれたり、橋が流されたりしていました。最近では、国や静岡県・富士宮市が川や沢の改修や護岸工事、砂防工事などを行っており、水害も少なくなっています。

まめ知識

おおさわくず さぼうこうじ ふじさぼうじむしょ たいさくじぎょう 大沢崩れと砂防工事 (富士砂防事務所の対策事業)

富士山の西側に頂上付近から大きくけずられているところがあります。これが大沢崩れです。

頂上の下から崩れ始めていて、最大幅500メートル、最大深さ150メートルに及ぶ大きな崩壊地です。富士砂防事務所では大沢崩れから発生する土石流から下流域を守るために、下書いてある工事のほか、いろいろな対策を行っています。



危険な場所では、無人の重機を、安全な場所で操作し工事を行っています。

山腹工：(崩れ落ちた山の斜面に、土砂崩れを防ぐために柵や

壁を設置する。植物がよりよく育つよう、斜面の土を固定して緑化をすすめる。)

床固工：(川底を固めて勾配をゆるやかにし、川底の土砂がけずられるのを防ぎ、土砂がたまりやすくする。)

遊砂地整備・沈砂池工：(土砂や土石流を止めるための工事)

*富士宮市を流れる弓沢川や風祭川などでも、防災のための砂防工事が行われています。

《中部地方整備局富士砂防事務所(URL: <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/index.html>)を加工して作成しました。》

ひみつ3

富士山の湧き水について

富士山にふった雨や雪は、地下にしみ込み地下水となって、ゆっくりと時間をかけて地面のなかを移動します。そして地面のなかできれいな水になっていきます。

住宅の多いところでは、コンクリートやアスファルトで雨がしみ込む量が少なくなっていますが、富士山や周辺の森林などにふる雨や雪はたくさんの地下水になります。

そして、ふもとの地域で湧水となったり、井戸ですい上げられていろいろと活用されています。

◆猪之頭湧水群

猪之頭地区には多くの湧水池があり、たくさんの量の水が湧きだしています。これらの湧水は芝川の源流となり、マスの養殖やワサビ田などの用水としても使用されています。

◆^{わくたまいけ}湧玉池（国の特別天然記念物）

^{わくたまいけ}湧玉池は、浅間大社の境内にあり、富士山にふった雨や雪の地下水が^{ようがんりゅうまつたん}溶岩流末端で湧きだして池になったものです。昔は、^{わくたまいけ}湧玉池の水で心身を清めてから富士山に登っていました。

^{わくたま}湧玉池と^{へいせい めいすいひやくせん かんきょうしょう}神田川は、平成の名水百選（環境省平成20年）にも選定されています。

◆^{めいしやう てんねんきねんぶつ}白糸ノ滝（国の名勝及び天然記念物）

世界遺産の構成資産にも登録されている^{せかいいさん こうせいしさん とうろく}白糸の滝は、富士山の^{ゆきど}雪解け水が、^{らくさ}落差約20m・幅150mの^{わんきよく}湾曲した^{ようがん すきま}溶岩の隙間から湧きだし、^{しばかわ}芝川が流れ落ちる^{たき}滝の本流の横に、^{よこ}白い糸をたらししたように、^{たき}たくさんの細い滝があります。これが^{たき}白糸ノ滝の名前になっています。



◆ほかのまちの湧水

◆^{さとゆうすい}「泉の郷湧水公園」（富士市）

富士市の東部地区には、^{ゆうすい}たくさんの湧水スポットがあります。^{しんすい}親水公園では^{ゆうすい}湧水やせせらぎを楽しむことができ、その水は、生活用水や農業用水にも使われています。

◆^{かきたがわゆうすいぐん}柿田川湧水群（清水町）

清水町の^{かきたがわ}柿田川の^{ゆうすいりやう}湧水量は多く、^{かんきょうしょう}名水百選（環境省昭和60年）に選ばれている水は、富士山や箱根からの地下水で、昔から農業や工業につかわれ、飲料水としては清水町のほか^{はこね}たくさんのまちで使われています。

◆^{ゆうすいぐん}三島湧水群（三島市）

三島市では富士山や箱根からの地下水が市内の各所に湧き出ていて、市内を流れ、^{いこ}憩いの空間を生んでいます。そのような水を活かした取り組みにより、^い水の郷百選（^{さと}国土交通省平成7年）に選ばれています。また、^{げんべえ}源兵衛川は、^{へいせい めいすいひやくせん かんきょうしょう}平成の名水百選（環境省平成20年）に選定されています。

ひみつ4

富士宮市の水道水について

私たちが使用している水道水の多くは、富士山からの湧水や地下水などを市内各地30か所で取り入れ使用しています。

特に大きな取水地は、^{しゆうすいち}湧水を利用した^{つばきさわすいげん}椿沢水源（^{しやうじんかわ}精進川）、^{みずくぬぎ}地下水をくみ上げている^{しんすい}水柵水源（^{よどし}淀師）、^{じやうすいじやう}北山浄水場を^{いのかしら}經由する^{ゆうすいぐん}猪之頭の湧水群などがあります。水道水として年間約2000万トンが配水されています。

だいぶ前のことになりますが、^{こうせいしやう}富士宮市の水道水が1975年に^{こうせいろうどうしやう}厚生省（現厚生労働省）による『水道水のおいしい都市』32市に選ばれたこともあり、いまでも、^{ひやうか}専門家からの評価は高いようです。

おいしい水を守るために、富士宮市では、^{しせつ}水道施設の^{せいび}整備と^{かせん}河川の^{すいしつほぜん}水質保全につとめています。

富士宮市の水道水がおいしい理由

他の^{ちいき}地域は、川やダムの水をきれいにして水道水にしているところが多いけど、富士宮市など富士山のまわりの^{ちいき}地域は、もともときれいな^わ湧き水や地下水を使っているから、^{しやうどく}消毒の薬を少ししか使っていないよ。だからおいしいんだね。



ひみつ5

農業用水・ほかの水利用

富士宮市内の多くの地域で湧水がありましたが、水のない地域もありました。そのため、昔の人々はたくさんの用水路を作り、川から水を取り入れ、生活用水や農業用水として利用してきました。

特に、猪之頭湧水群の水は芝川となり、多くの用水路に取り入れられ、白糸・上井出・北山・山宮・万野原新田・上野・柚野・西山地域で利用されています。

きれいな湧水は、ワサビや水かけ菜に利用されていて、ニジマスを育てている養鱒場やお酒を造る酒蔵が多いのもきれいな水があるからです。

また、水量の安定している川や地下水を求めて、水を必要とする製紙業のほか、多くの企業(工場)が進出してきています。また、発電などにも利用されています。

ひみつ6 富士山の恵みの水を守ろう

「富士山の恵み」のひとつ、きれいな湧水や地下水は、飲料水のほか、おいしい料理やわたしたちの健康にも大きく関わっています。

また、農業や水産業、工業にも使われています。白糸ノ滝や湧玉池などの湧水のある景色は観光や私たちの暮らしに潤いをもたらしてくれています。水量の安定した川では発電も行われています。

このように、私たちには富士山の水はとても大切なのです。

そのため富士宮市は、くらしや産業を支えている豊かな地下水を守るために、森林の保全や整備、湧水や地下水の調査・水質保全につとめています。

きれいでおいしい水を守るためには、わたしたち一人一人が、水をむだに使用しないようにすることはもちろん、富士山や周辺の自然を守り、湖、池、川、まち全体を汚さないようにすることが大切です。



わくたまいけ せいそう
湧玉池の清掃

『第30号・富士山からの水の恵み』は、次の資料を参考にして作りました。

- 1 『富士砂防事務所ホームページ』 中部地方整備局富士砂防事務所
- 2 『ふじあざみ 102・106・110号』 富士砂防事務所 2017～2019
- 3 『富士宮の保存樹・保存湧水池』 富士宮市水と緑の課 2000
- 4 『ふじのくに水紀行』 静岡県くらし・環境部 2014
- 5 『第5次富士宮市総合計画 2016～2025』 富士宮市
- 6 『ふじのみやの水道』 富士宮市水道部
- 7 『富士宮市役所ホームページ』 富士宮市
- 8 『富士山のすごいひみつ』 主婦と生活社 2013
- 9 『富士宮』 中学校社会科地域学習資料 富士宮市教育委員会 2019

そのほか、「ブックちゃんのふじのみや探検」第3号「富士山の湧き水のひみつ」第17号「用水のひみつ」

第20号「白糸の滝のひみつ」第25号「ニジマスのひみつ」第28-2号「小水力発電富士宮市日本一のひみつ」なども参考にご覧ください。

